



ロータス東海の ちいらいっご通信



今月のちいらいっご

じいちゃんとおばあちゃん

桜の前で撮った祖父の写真は、私に元気をくれる。

私は小学生の時、祖父に何度も腕相撲の勝負を挑んだが、祖父のしわくちやになつた大きな手から溢れ出る力は、驚くほどに強かつた。

その力の源は、鍛冶屋を営んでいた頃に鍛え上げられたものだ。しかし、祖父は突然立ち上がる事ができなくなり、医師から、手術をしても今後は車椅子生活になると言われた。長いリハビリが始まり、家には電動式のベッドとスロープが設置された。

祖父の退院後、一緒に桜を見に行つた。幼い頃、祖父にベビーカーを押してもらつていた私が、今は祖父の車椅子を押している。元気だった祖父の姿を知っているだけに、本当に寂しくてたまらなかつた。

しかし、車椅子生活になつて二年、鍛冶屋で鍛えた腕相撲の強い祖父は、自分の足で歩くことを諦めなかつた。今年の

春、桜を見に行つて写真を撮ろうとした時、「じいちゃん立つわ」と言った。曲がつた腰をグツと伸ばし、地面を力強く踏んで立つ姿は、祖父の努力の賜物であり、元気に鍛冶屋をしていた頃よりもかっこよく見えた。

この夏には歩行器を使用して歩けるまでになり、医師も驚いていた。

私の自慢の元気な祖父が戻ってきたようで、胸が熱くなつた。私は今から春が待ち遠しい。祖父と一緒に写真を撮ろう。桜並木の中をじいちゃんとおばあちゃんの手を繋いで歩いている様子が目に浮かんでくる



ロータス祭りクラブ

佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ



佐賀インターナショナル・バルーンフェスタは、佐賀県佐賀市嘉瀬川河川敷をメイン会場として11月の初旬に開催されるバルーン(熱気球)の国際的なフェスティバル(競技大会)です。

参加するバルーンは約100機! 大会期間中の来場者数は80万人を超えるアジア最大級の規模を誇るイベントです。

1978年、福岡県甘木市で開かれた「バルーンフェスタ・イン九州」という小さなバルーンミーティングがその始まりでした。1980年からは会場を佐賀平野に移し、佐賀の熱気球大会がこの年スタートしました。

1984年からはアジアで

初めて国際大会を開催。大会名称を「佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ」と改め、現在に至っています。1980年の開催時から競技中心の運営を行っており、日本国内の熱気球チャンピオンを決める「熱気球日本選手権」は、1984年の第1回開催以降、2008年までに19回佐賀で開催されてきました。

また、競技以外にも、様々なキャラクターバルーンを楽しめるバルーンファンシアや、日没後の夕闇、幻想的な熱気球の係留飛行シーンをご覧頂く「ラ・モンゴルフェ・ノクチューン」も見ものです。

ロータスクラブはCO2削減に取組んでいます
Fun Store

